

千曲市気候非常事態宣言

産業革命以降、化石燃料の使用や森林の伐採などの人間活動により、温室効果ガスの濃度が上昇し、それに伴い世界各地で、地球温暖化の影響と思われる記録的な猛暑や豪雨などの異常気象、海水面の上昇、生物の絶滅危惧などの問題が頻発している。

2019年10月に発生した台風19号は、地球温暖化による海水温上昇の影響を受け、かつてない巨大な勢力に発達し、本市にも甚大な被害をもたらした。気候変動によって発生する様々な問題は、本市にとっても極めて深刻な脅威となっている。

本市は、地球温暖化防止に向け、再生可能エネルギーの利用や省エネルギーに積極的に取り組み、低炭素なまちづくりを進めるため、2016年3月に「第二次千曲市地球温暖化対策推進計画」を策定し、温室効果ガス排出量の削減目標を定め、温暖化対策を推進してきた。しかし、近年の気候変動による人間社会及び自然界への影響がスピードを増して危機的な状況に進んでいることや、国連で採択されたSDGsを千曲市として推進する立場を踏まえ、今まで以上に市民一人ひとりが危機感を持ち、気候変動に対し行動を起こすことが重要である。

よって、本市は、ここに気候非常事態を宣言し、防犯灯を含む市有施設のLED化や再生可能エネルギーの積極的な導入、全市民による省エネルギーの徹底、Reduce（ごみの排出抑制）・Reuse（再利用）・Recycle（再資源化）の3Rによる焼却ゴミの減量、植樹作業や里山保全活動による森林の適正管理など、市民が一人丸となり温暖化対策に取り組むことにより、清らかな千曲川と豊かな緑があふれる「千曲市」を次世代に引き継いでいけるよう、持続可能な社会づくりを目指すこととする。

令和2年（2020年）2月25日

千曲市長 **岡田昭雄**